

科目	生徒指導	担当	小川 純子	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる、学習活動と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係諸機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。

生徒指導の意義と原理を理解できる。

全ての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解できる。

児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。

【履修注意】

教職課程を履修する学生の必修科目であり、教職課程を希望しない場合は受講できない。①教育問題に対して常に関心を払い、自己の見解を持つ。②他者の意見を真摯に「聴く」ように努め、積極的に質問、発言をする。③教壇に立つ者としてのマナーに留意する。など、積極的に授業に取り組むこと。欠席は4回までとする。(遅刻2回で、欠席1回とする) パソコンを持参する。

【評価方法】

定期試験(中間まとめ、期末試験)70%、小テスト・レポート点20%、討論や質疑応答・スピーチへの参加意欲10%を基本とし、総合的に評価する。

【試験について】

毎回のレポートは小テストとして扱う。中間まとめ・期末に筆記試験を行う。

再試験対象者の条件: 不合格者のうち、小論文すべて提出、小テストすべて合格、筆記試験40点以上の者

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。本講義は2単位科目なので、90分の講義に対して90分の

自宅学習(予習、復習)が必要である。講義の都度自宅学習の内容を指示するので、次の講義時に提出する。

【教科書】

購入教科書なし

【参考書】

書籍名: 生徒指導提要 著者: 文部科学省 出版社: 教育図書出版社

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	生徒指導の意義と役割	ガイダンス 生徒指導の歴史 自己指導力
2	適応と発達	発達の法則と諸理論 自己理解 自己受容 自己同一性
3	子どもを取り巻く状況	家庭・地域・学校 「広場」と「隙間」 進学競争への早期参入
4	生徒理解Ⅰ	自我形成: 同一性確立と拡散
5	生徒理解Ⅱ	反社会的行動: 暴力 薬物 セクシャルアクシデント 校則違反他
6	生徒理解Ⅲ	非社会的行動: 自殺念慮 いじめ 不登校 ひきこもり
7	生徒指導の方法 集団指導	機能 集団作り 学級集団 部活動 生徒会他 中間のまとめ
8	生徒指導の方法 個別指導	教育相談 傾聴 成長力への信頼 受容・共感的理解
9	生徒指導の方法 家庭との連携	保護者への理解と対応 クレーム対応他
10	生徒指導の方法Ⅰ	特別支援教育 他機関との協働 社会資源の活用
11	生徒指導の方法Ⅱ	学習における生徒指導 授業による人間関係作り 実践例紹介
12	校則・懲罰・体罰Ⅰ	校則の意義、動向、問題点 今日的視点
13	校則・懲罰・体罰Ⅱ	体罰の定義 歴史的経過 判例 「自己指導力」に基づく教育
14	虐待・子育て支援	定義 背景 影響 対応 支援
15	進路指導	進路指導の今日的課題: 生き甲斐 将来展望 予防的開発的指導
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ